

情 報 公 開 文 書

研究の名称	母子の鼻腔・口腔内における抗体産生および常在細菌叢とアレルギー性鼻炎の関連（エコチル調査の追加調査）
整理番号	R2020072
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 （所属・氏名）	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 土田暁子
研究の概要	【研究対象者】 エコチル調査に参加する子どもおよび母親を対象としています。リクルートが終了し 590 名の母児が登録されました。 【研究の目的・意義】 ヒトに常在する細菌叢は多くの疾患と関連しており、鼻内細菌叢も生後 18 か月で確立し、鼻炎の有無によって構成が異なることが知られています。しかし、アレルギー性鼻炎の発症機序における鼻内細菌叢の役割は明らかになっていません。IgE による I 型アレルギーに対し、IgA は抑制的に働く可能性があり、腸内細菌叢と IgA の関係が知られていることから、鼻内細菌叢と鼻腔内 IgA 産生との関連が示唆されます。本研究では、エコチル調査に参加した母子 1,700 組を対象に、鼻内細菌叢、炎症性サイトカイン、唾液中抗原特異的抗体などを解析し、アレルギー性鼻炎の予防に寄与する因子を明らかにしたいと考えています。さらに、食事内容や 2 歳時の腸内細菌叢データも用いて、6 歳以降の発症との関連を検討し、早期介入のための「ハイリスク集団」の特定を目指します。 【研究の方法】 唾液中の細菌叢を特定し、細菌叢のパターンとアレルギー性鼻炎との関連を検討します。リクルートと情報収集は終了し、解析および成果発表の段階に入っています。 【研究期間】 2020 年 07 月 06 日～2028 年 3 月 31 日 【研究結果の公表の方法】 本研究の成果は、免疫関連、公衆衛生学関連の雑誌への投稿および学会発表を予定しています。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 （他機関への提供の有無）	花粉症あるいはアレルギー性鼻炎の発症(医師の診断および International Study of Asthma and Allergies in Childhood (ISAAC) 質問票を用いた判定)のほか、交絡因子として以下の項目を検討する。妊娠期の栄養摂取（総カロリー、魚介類、 ω 3, 6 系多価不飽和脂肪酸、ビタミン D、葉酸摂取量など）、出産時年齢、妊娠中の母体の喫煙および飲酒状況、受動喫煙、母親の既往歴、教育歴、婚姻状況、世帯収入、母親の体格、妊娠期間、分娩時の異常、出生順位、児の体格（体重・身長）、児の身体異常、児の栄養摂取（母乳継続期間、牛乳、乳製品、発酵食品の摂取）、妊娠中の IgE 抗体量、小児血中の IgE 抗体量、小児便より検出した腸内細菌叢、など。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学長 齋藤滋
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。

試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 土田暁子
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話： 076-415-8842 FAX： 076-415-8843 E-mail： ecojimu @med.u-toyama.ac.jp 担当者所属： 富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 氏名： 土田暁子